

南の風 349

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

日本女子アンダーカテゴリー選手の特長として、「Discipline」があります。Disciplineとは、規律正しい、あるいは統制がとれていると意味になります。国際試合に行くと、海外のメディアや観戦している各国のコーチから、「日本の選手は、規律正しいし、ルールを非常によく守る。またみんなでプレーするのが上手い」と言われます。

またドライブのスピードが速いというのは、群を抜いています。各国の選手に比べ1.5倍位速いと思います。そしてドライブのスピードにも関連しますがボール操作がスムーズで、ボールの扱いにたいへん長けています。

特長の最後です。

「文句を言わず黙々と取り組む」ことです。もうちょっとしゃべってもいいのかなと思いますが、とにかく黙々とやります。痛いところがあっても、分からないことがあっても練習やプレーに黙々と取り組みます。行儀がいいと言えば、そうなんです、このことについては課題となる面もあります。

<日本女子アンダーカテゴリー代表が抱えている課題>

◇コンタクトに弱い

オフェンスもディフェンスもコンタクトに弱い。コンタクトを嫌がる。好きじゃない。

◇ドライブから攻めのスキルを上げること

ドライブ自体のスキルアップはできているが、フィニッシュが弱い。ディフェンスとの絡みの中でのシュートセレクションや駆け引きの工夫が足りない。ディフェンスの状態を見ないで突っ込んでしまうケースが多い。

◇ハーフコートオフェンス

トランジションからの得点が30%だとすると、あとの70%はハーフコートの攻めの戦術だとか約束事を遂行する力が必要になる。例えば、スクリーンやパスしたあとのカットや動き方を教えるのに相当時間がかかる。

◇ポストディフェンス

特に海外のポストマン（長身者）のディフェンスが弱い。ほとんど後ろで守ることが多い。ポストマンにボールが入ってしまってから守ろうとする。ダブルチームやヘルプディフェンスのよりはあまり指導しなくてもたいへん上手にできるが、ポストマンを行きたいところ行かせないディフェンス（身体を張って守る）に課題がある。

◇リバウンド

ディフェンスリバウンドでは、ボールを見てしまうケース（ボールウオッチング）がものすごく多い。そして跳び込まれてしまう。海外の選手は、めちゃくちゃリバウンドに跳び込んでくる。オフェンスに身体を当てて取りに行く戦術もあるが、女子の場合はボックスアウトをしっかりさせたい。自分のマークマンを確実に止めることを徹底することが大事である。